



レビー小体型認知症サポートネットワーク福岡 第 22 回研修会・交流会



前回、2021年3月18日に開催して以来、約1年半ぶりとなった第22回研修会・交流会を2022年10月20日（木）天神・BiVi福岡で、協力医 合馬慎二先生の司会のもと開催しました。新型コロナウイルスの感染対策として、参加者の皆様には前回同様、検温と入室時の手指消毒、マスクを着用しご参加いただきました。初めに、DLBSN福岡の代表が下村順子さんから森本剛さんへ交替したことが報告されました。11名の参加があり、このうち初参加が6名でした。

レクチャー「レビー小体病認知症とのつきあい方」

顧問医である坪井先生から、レビー小体病認知症とのつきあい方についてお話がありました。レビー小体型認知症は初めて出る症状が人により異なります。たとえば、運動症状として運動緩慢、前屈位姿勢、書字困難があります。認知機能、精神症状としては、注意力低下、意欲低下、興味喪失が現れます。また、うつ、睡眠障害、聴覚障害、幻視、痛みが現れることもあります。そのため、レビー小体病認知症と診断されるまでに3年ほどかかることも多いと説明されました。早期診断が重要なため、適切な治療を施し不適切な治療を受けることが必要だとお話されました。

グループワーク

顧問医、協力医を囲み、現状や相談ごとについて語り合いました。そのうちのいくつかを紹介します。

- ・ 5年前に診断されたが、これからどうなっていくのか知りたい。
- ・ 妄想やパーキンソン症状、食べにくさ飲み込みにくさがあり、関わりの難しさを感じている。

→妄想を引き起こすきっかけを取り除くことが必要で、環境づくりが大事だ。家族からみ

て辛そうだと思っても、本人がどう思っているかが大事なので、無理に活動させようとするとかえってストレスになることがある。興味をひくものを試してみてもどうか。

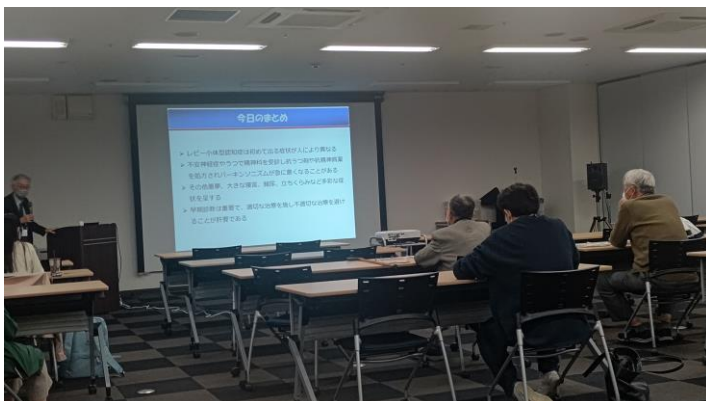
- 幻視や言葉の出にくさがある。転倒することが多く、自宅での介護に不安がある。
→リハビリを続け、転倒してもよい環境づくりをしておく。
- 自動車の運転について
→認知症と診断を受けると運転はできない。MCI の境目はわかりにくいことがあるので、
運転しない生活スタイルにしていくことが必要。

次回の研修会・交流会は、2023年1月12日（木）18時～

BiVi 福岡 6階会議室です。

*新型コロナウイルス感染の状況によっては延期・中止や一部会の内容が変更になる可能性
もありますのでご了承ください。

*参加の際には、マスクの着用、自宅での体温測定をお願い致します。



報告者：DLBSN 福岡 副代表坂梨左織